第１回四日市市大学基本計画策定委員会　議事要旨

■ 日 時
令和６年５月２２日（水）午後３時００分から午後５時００分まで

■ 場 所
商工会議所　３階　大会議室

■ 出席者
（策定委員会委員）
谷口 研二委員長、加藤 義人委員、加藤 真紀委員、 玉上 晃委員、種橋 潤治委員、舘英次委員
（アドバイザー）
国立大学法人三重大学理事・副学長 佐久間 肇、元鈴鹿工業高等専門学校校長 竹茂 求
（四日市市）
荒木政策推進部長、氏次政策推進部理事、伊藤都市整備部理事、矢澤政策推進課長、橋本都市計画課副参事、伊藤市街地整備課副参事、冨田政策推進課大学構想推進室長
（事 務 局）
井上政策推進課大学構想推進室主幹、岩田政策推進課主幹大学構想推進室主幹

■ 議事
１．委員の委嘱
２．委員長の選出
３．自己紹介
４．四日市市大学設置に係る基本構想について
５．四日市市大学基本計画策定に向けた進め方について（案）
６．今後のスケジュール

■ 議事要旨
４．四日市市大学設置に係る基本構想について
令和５年度に策定した四日市市大学設置に係る基本構想について説明

５．四日市市大学基本計画策定に向けた進め方について（案）
本委員会のもとに基本計画の具体的な内容を検討する組織として、教育研究及び施設計画に係るワーキンググループを設置し、各ワーキンググループが相互に連携しながらとりまとめた意見をもとに議論を行い、基本計画を策定していく。

＜主な意見＞
- 大学においてどのような教育・研究に係る連携を行っていくのか、また、それをどう空間に反映するかが両ワーキンググループでの課題かと思う。
- 会議を進めていく中で、状況によって変わることはどんどんイノベーションして変えていくことが大事である。発展的に変えていく議論にしていただきたい。

＜会議全体を通しての主な意見＞

- 複数大学の設置・協力によるシナジー効果を得られるような大学間連携を目指すことは良い取組であり、どのような連携が学生にとって魅力的となるかは、連携の内容が重要となる。
- 市民にひらかれた大学とするためには、意図的に市民と大学関係者が交流するような空間づくりの仕掛けとして、商業施設のような都市機能も検討する必要がある。
- 今回の大学の設置は地域に若者を根付かせる大学となるかどうかが課題であり、起業やスタートアップ、企業との連携は重要な点となる。
- ある大学ではオープンスペースとプライベートゾーンが明確に分かれおり、市民の方がお昼ご飯を食べたり、犬の散歩をしていたりということが普通に行われている。一方で、理工系となるとプライベートゾーンが明確に分かれている必要があり、企業と連携するとなれば厳密なプライベートゾーンとしなければならない。そのメリハリをつけた空間づくりが必要である。
- 複数大学の設置や連携にあたっては、なんでもいいからとりあえず来てくださいといった形は一番避けなければならない。しっかりとコンセプトをもつことが必要である。
- 大学を設置するにあたっては市が相応の覚悟を持つことが必要であり、市の相当の財政負担が考えられるため、国や県の様々な支援を得られるよう進めるべきである。
- PBL（Project-Based Learning：生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習方法のこと）ができる環境についても検討してはどうか。
- 学生達は地域の企業を知る機会がない。企業の課題に取り組んで解決するといった経験をすると、小さな会社であっても自分が活躍できるといったことが分かってその企業に入るといったケースがある。地域連携においては地域や企業の課題を解くといったことを一つのポイントとすべきだと考える。
- 産業界の要望にも応えられること、ある程度の競争倍率を持った志願者が見込めること、社会に出たときにどの程度地域に定着するかということを考え、適正な規模を検討する必要がある。
- 学力が多様化しており、効率的な指導が難しくなってきている分、教育を工夫して進める仕組みを持たなければならない。
- これまでの日本は偏差値的、学力的な教育を重視してきた。もちろん学力は必要だが、世の中のエンジニアに求められる能力は何なのかを考えながら教育を行わなければならない。